

## 第5章

# 金剛地区再生の実現に向けて

将来像の実現に向けた取り組みは、行政や事業者が取り組むこと、各主体が連携して取り組むこと等、さまざまですが、住民一人ひとりが日常の暮らしの中で取り組めることも多くあり、一人ひとりが意識して“できること”から始めていくことが大切です。

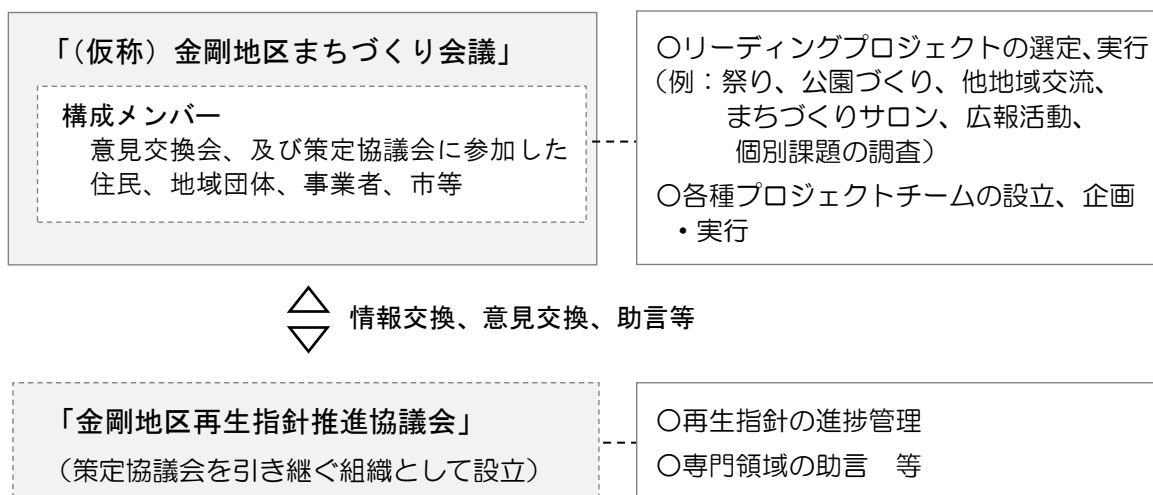
そのために、住民・地域団体・事業者、及び行政等が一丸となった地区の再生・活性化を進めるための主体となる組織として「(仮称)金剛地区まちづくり会議」を設立します。当面は、先導的に実践する取り組みを「リーディングプロジェクト」として選定し、企画・実行して実績と経験を積み重ね、まちづくりにかかわる人等の輪を広げていきます。まずは、下記の取り組み体制(案)をもととした組織を設立しますが、今後取り組みを進めていく中で体制を再編する等、柔軟性のある組織とします。また、研修プログラムや専門家によるアドバイス等の支援、リーディングプロジェクトでの実践を通じて、金剛地区のまちづくりを牽引する担い手を育成します。

将来的には、このような個人や団体間のつながりが熟成し、会議体の枠にとらわれずに新たな取り組みが日々起こるまちを目指し、この再生指針で見定めた「将来像の実現に向けた取り組み」を具現化します。

なお、まちづくりを主体的に実行する「(仮称)金剛地区まちづくり会議」のほかに、この再生指針の進捗管理や専門領域にかかる助言をするため、再生指針策定協議会を引き継ぐ組織として「金剛地区再生指針推進協議会」を設立します。

また、市はこれらの金剛地区再生・活性化への取り組みを行政としてバックアップするとともに、UR都市機構や南海電鉄をはじめとする地区に関係する事業者、NPO等の団体、周辺の大学及び大阪府や大阪狭山市等の関係行政機関等と連携・調整を進めます。

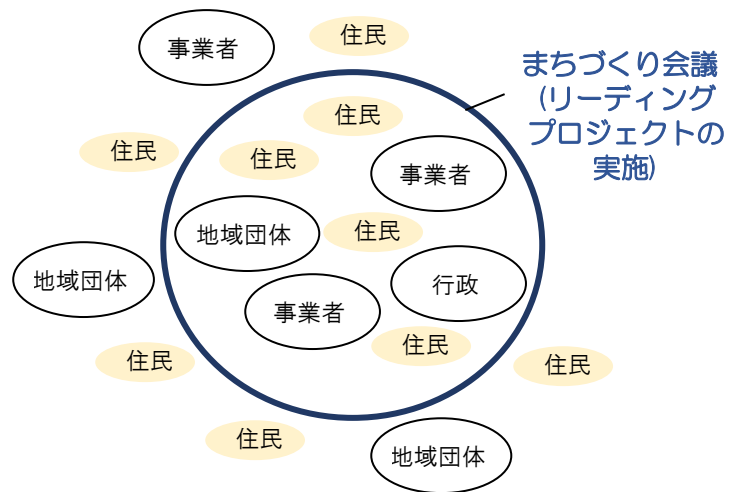
### ○ 当面の取り組み体制(案)



## ○ 取り組みの展開イメージ

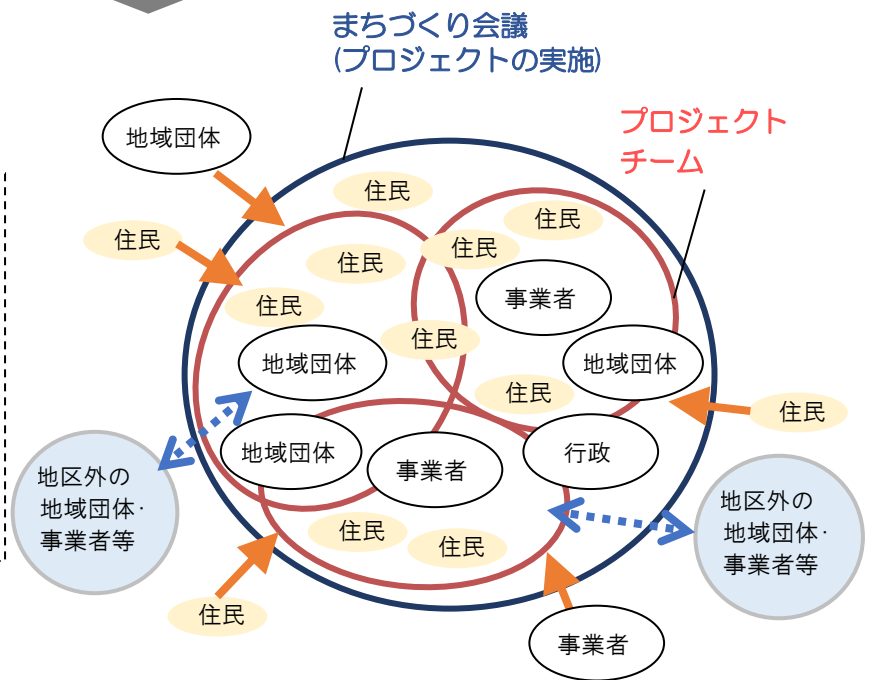
I

- 「(仮称) 金剛地区まちづくり会議」を設立します。
- まずは、みんなでリーディングプロジェクトに取り組み、実績と経験を重ねます。
- 同時に、専門家や研修等の支援により、まちづくりの担い手を育成します。



II

- 取り組み毎に、プロジェクトチームを組んで企画を実行します。
- その積み重ねを契機に、まちづくりへの参加者を増やします。
- 個人や団体間のつながりを強めながら、地区外の地域団体・事業者等との連携も深め、新たなプロジェクトに取り組みます。



→ 新たな参加    ←---→ 連携